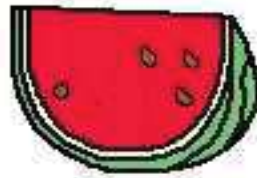


少年

第437号(1) 令和4年8月(葉月)発行



山梨県警察本部
生活安全部 少年・女性安全対策課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線3082
少年対策官 北原宏明

「記憶にとどめておきたいこと」

残暑お見舞い申し上げます。まだまだ暑い日が続きますが、体調に十分留意してお過ごしください。

さて、皆さんは8月といえばどのような思い出をお持ちですか？今年の8月はどのような思い出ができましたか？思い出は人それぞれだと思いますが、家族と行った海水浴や登山、旅行を思い出す方もいれば、中学校、高校時代に暑い中、部活動に参加して汗を流したり、関東大会や全国大会に出場したことを思い出す方もいることでしょう。では、日本の8月と聞いて連想するものは何ですか？これも人それぞれ連想するものは異なると思いますが、かつて日本が経験した太平洋戦争を連想する方もいるのではないのでしょうか。6日に広島、9日には長崎に原子爆弾が投下され、多くの尊い命が一瞬にして奪われました。また15日には天皇による玉音放送により、日本の降伏が公表されました。太平洋戦争が終わって今年で77年が経ちました。実際に戦争を経験してその記憶をとどめている方は年々少なくなっており、日本が経験した太平洋戦争の記憶が風化していることは否めません。確かに戦争のような負の記憶は、思い出したり考えたりしたいものではないかもしれませんが、過去の悲惨な記憶を思い出すことがこれからの日本の未来について考えるヒントになることもあります。私たちは、かつて日本が経験した戦争の記憶をこれからも心にとどめ、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考えていきたいものです。そして、これからの世代にも語り継いでいきたいものです。



また、日本の8月といえば、お盆を思い浮かべる方もいるでしょう。お盆は時期や内容が地域によって異なることもありますが、「先祖の霊を迎えて供養する」といった意味があり、ご先祖様を敬う日本の年中行事のひとつです。お盆は亡くなった方を思い出す大切な機会であり、その方を自分の記憶の中にとどめておくことにつながります。



しかし、近年このような日本古来の年中行事について、行う意義を正しく理解していない、またはその存在すら知らない日本人が増えているようです。各地で開催される祭や伝統芸能が少子高齢化による後継者不足等で存続の危機にあるという報道も耳にします。これらの課題を解決する第一歩は、年中行事や祭、自分の住んでいる郷土について見つめ直し、理解することが大切だと思います。今まで先人たちが築き上げてきた日本や各地方のすばらしい伝統や文化を次の世代に継承するためにも、年中行事や祭の意義などを正しく理解し、私たちの記憶の中にとどめたいものです。

例年、8月26・27日には夏の富士山の山じまいの祭である吉田の火祭り（国指定重要無形民俗文化財）が開催されます。吉田の火祭りが終わると北麓地域は秋を迎えるといわれています。年中行事や祭を通して季節の移り変わりを感じることでできる我が国日本は、世界に誇れる麗しの国です。私たちの住む日本がこれからも麗しの国であり続けるように麗しの国に住んでいる私たちが努力していきましょう。

自分の命は誰のもの？

18歳以下の自殺者が最も多い日は、夏休み明け直後の9月1日という調査結果があります。夏休みが終わって再び学校生活が始まることで、大きなプレッシャーや精神的動揺によって自殺者が増加すると考えられています。

誰もが一度ぐらいいは夏休みや大型連休などの長期休業の終わりが近づくと何ともいえない憂鬱な気分になったことがあるのではないのでしょうか。夏休みのような長期休業でなくても日曜日の夕方にも同じような気持ちになる方は少なくないと思います。このような憂鬱な気分にならなくなってしまふことが自殺の一因であると考えられているため、このような気持ちをできるだけ和らげることが自殺の抑制につながります。しかし、自らの力で自分の気持ちを和らげることがなかなか難しいことです。そんなときには1人で悩まず、家族や先生に相談したり、他愛のない会話をしたりすることが大切だと思います。明確な解決策が見つからないにしても、人に話を聞いてもらうだけで気持ちが楽になることもあります。クラスメイトや職場の同僚同士で早期に仲間の変化に気づき、お互いに声を掛け合っていきたいものです。

それでも解決できなければ、自殺を選択するということについて皆さんはどう考えますか？相田みつをさん（詩人）は自殺という選択について次のように表現しています。

あのね にんげんはねえ 自分の意志で この世に生まれて きたわけじゃねんだな
だからね 自分の意志で 勝手に死んではいけねんだよ

自分の命を自ら絶って何が悪いんだと考える方もいるかも知れませんが、人間は誰一人として自分の意志でこの世に生まれてきた人はいないのです。私たちの命は、親から与えられた大切な命であり、多くの人に支えられている命なのです。そのような命を自ら絶ってもいいのでしょうか？自分の命は自分だけのものではありません。そのことを再認識し、与えられた命が尽きるまで自分を愛し続けてください。

発行番号は昭和61年初号からの通算番号です。

https://www.pref.yamanashi.jp/police/p_syonen/shonenkoho.html

県下非行少年等・補導状況 上半期のまとめ

令和4年1月～6月までの県下非行少年等検挙・補導状況は、「非行少年」は44人で、昨年同期に比べ、9人減少しています。そのうち、「刑法犯少年」は27人で、昨年同期に比べ、10人減少しています。また、「特別法犯少年」は3人で、昨年同期に比べ、7人減少しています。「不良行為少年」は、1830人で、昨年より533人増加しています。

刑法犯少年……窃盗、暴行、傷害などの罪を犯した少年
 特別法犯少年……のぞき、薬物、不正乗車など刑法以外の罪を犯した少年
 不良行為少年……飲酒、喫煙、深夜徘徊等、自己または他人の徳性を害する行為をする少年

「刑法犯少年」 27人の学校・職業別

小学生	1人 (3.7%)	中学生	1人 (3.7%)
高校生	9人 (33.3%)	有職少年	10人 (37.0%)
無職少年	5人 (18.5%)	その他	1人 (3.7%)

「不良行為少年」 1830人の学校・職業別

小学生以下	28人 (1.5%)	中学生	117人 (6.4%)
高校生	761人 (41.6%)	大学生	67人 (3.7%)
その他学生	58人 (3.2%)	有職少年	497人 (27.2%)
無職少年	302人 (16.5%)		

※小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計が必ずしも100%とは限りません



<主な不良行為>

喫煙 532人 深夜はいかい 363人で「不良行為少年」の48.9%を占めています。

子供や女性への声掛け等事案について 上半期のまとめ

県内における子供と女性に対する声掛け等事案は、令和4年上半期(1月～6月)で178件発生しています。昨年同期に比べ、17人増加しています。例年、夏から秋にかけて増加する傾向があり、今後もさらなる啓発とともに、地域総がかりによる「見守り」が必要です。

「声掛け等事案」とは

- 声掛け行為……卑わいな言葉、誘惑する言葉、乱暴な言葉などを掛ける行為
- つきまとい行為……つきまとい、立ちふさがり、待ち伏せ、容姿を写真撮影するなどの行為
- わいせつ行為……抱きつき、触れるほか、のぞき見、盗撮、身体を露出するなどの行為
- 暴行的行為……手、足、衣服等をつかむ、叩く、引っ張る、物を投げつけるなどの行為
- 不審者等……上記4つの行為に該当しない行為で、例えば、置き手紙をする、見つめるなどの不審な行為

防犯対策

- 1 なるべく夜間(夕方以降)の一人歩きはやめる。やむを得ない場合には、遠回りでも幹線道路など、明るくて広い道を通る。特に夕方・夜間の女性の一人歩きの場合は、要注意。
- 2 昼間でも人通りのある道、見通しのよい道を通る。
- 3 人や車の多い通りから裏通りへ入る時は、後ろからついてくる人や車がないか確認する。
- 4 人や車とすれ違う時には、相手が手を出しても、触れられない間隔を確保する。
- 5 スマホを使用しながら、またはヘッドホンで音楽を聴きながらの歩行は、周囲への注意力が散漫になるので避ける。
- 6 帰宅時間が遅くなる場合は、家族に迎えにきてもらうようにする。

不審に思ったら、迷わず110番を!